

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「アジアのメガシティにおけるオゾンと2次粒子の生成メカニズムに関する研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:独立行政法人 国立環境研究所 地域環境研究センター

センター長 大原 利真

2-2. 中国側研究代表者:清華大学 環境科学工学研究所 所長 Jiming Hao

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

通常は取得困難な北京の大気汚染データを取得することができ、越境大気汚染の要因になっている中国国内の都市大気汚染の解明が進んだことは、当該分野の研究の画期的な進展である。観測、インベントリ調査、シミュレーションモデルの開発・適用を日中が協力して行い、国際的な成果を挙げつつある。今後、大気汚染の制御についての考察をさらに進めてほしい。

(2)交流成果の評価について

本研究以前からの協力を含めて7年間の研究交流で深い信頼関係に基づく研究ネットワークが形成されたことは高く評価される。データ提供が難しいと考えられていた北京の大気汚染データが得られたのは、相互信頼、過去の交流実績が大きく寄与している。ただし、1年に1回ずつ相互訪問する定期的な交流が中心であった印象をうける。より多くの学生が参加できるような、研究の進捗に応じた臨機応変な交流ができるとなお良かったと思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

相互交流におけるワークショップ以外のシンポジウムの開催や発表が少なかったが、期間中に取得されたデータをまとめて論文化した後に発表されるものと期待する。主要な研究成果が国際誌に発表されているなど、単独での論文発表や学会発表は多いが、共著論文や共同での学会発表がないのは残念であった。